

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900905		
法人名	北海道医療株式会社		
事業所名	グループホームハッピーヴィラしんまち		
所在地	旭川市6条西1丁目1番2号		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各入居者様の個性性を把握した上で、出来る事や得意なことから残存能力を活かし、身体、意欲現状維持を保てるよう、又、自己の生活ベースを保ち、ゆったりとした気持ちで充実感のある生活をおくっていただけるよう空間、環境作りを考慮しております。又、各入居者様の望みを出来る限り叶えられるよう個別ケアに重点をおき、入居者様、ご家族様に満足をしていただける生活支援を心がけております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/informationPublic.do?JCD=0172900805&SD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年11月16日

事業所は市内中心部の商業地に位置し、鉄筋建ての建物には1、2階に1ユニット9室が入居しており、同じ母体法人である医療法人の居宅事業所と訪問介護事業所が併設されている。平成13年に開設された当事業所の優れている点は、母体である医療法人等の連携の強さと、個別ケアの実践にある。系列には病院を始めとして、居宅支援事業所等があり、利用者の状況に応じた確で迅速な対応を可能としている。その確で迅速な対応は、個別ケアの徹底から導かれており、各利用者の介護計画の目標を介護員は把握し、日常生活にどのように反映させ実践しているかをモニタリングとして検証して記録し、介護員全員の共通理解としている。介護計画を念頭に入れた日々の個別ケアの実践が、毎日のモニタリングを経ながら安心のある笑顔に結実している事業所の取り組みに、今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各入居者様にとっての自尊心を常に考慮しながら個人にとってふさわしい生活支援をできるような心がけている。	理念はラウンジに掲げ、利用者と職員が常に意識できる様に設定し、ネームの裏にも記載して、ケアの原点として実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	運営推進会議やハッピーヴィラが主催会場となり講習会や演舞などを催し、地域の方に呼びかけ、交流を図れるようにしている	町内会が衰退している現状であるが、地域への働きかけを講習会や行事の開催で交流を促進させ、周知をポスティング等を用いて積極的な姿勢で取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への対応の仕方や自分達が認知症になった時や家族が認知症対応施設へ入所することになった場合などの内容を運営推進会議や講習会をおこなった時になげかけ、理解していただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練の内容や行方不明の方が出た時の協力を求める内容などから、ご意見を伺い、職員間で話し、業務に活かしている。	推進会議は地区の民生委員、地域住民、包括職員の出席により、定期に開催され、行事報告のみだけではなく、地域との協力体制等の論議も交わされ、サービス向上への意欲が窺える。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用料の改定や事業所で何か行う時などに、伺い教えていただきながら、連携、協力関係を築けるようにしている。	介護保険の更新申請や、制度の改定時に、話を聞ける場を持ち、何でも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様が玄関へ行った時はすぐに駆けつけ1人で外へ行かないようにしている。又、職員間でも玄関の施錠については熟知しており、拘束にあたらぬケアを心がけている。	身体拘束廃止委員会の研修や接遇研修を通して、また研修には事例を挙げて身近な問題として学び、拘束にあたらぬケアを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以前よりグループホームにおいてどのようなことが虐待で拘束か？ということを考え話し合いながら対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームへ入所前に日常生活支援を受けられていた入居者様があり、日常生活支援とはどのようなものか？を説明した。他、成年後見制度の研修に参加をし、研修内容について、理解しやすいよう説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今までの経過から、入所前に事前に解約時や改定時になった時のことを踏まえた説明をさせていただき、その後もご家族様と常に話しあい、状況対策について一緒に考えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様ご来所時、各入居者様の様子を話し、ご家族様の要望も伺い受け入れながら業務遂行と入居者様の対応に反応させている。	意見の聴取には家族の面会時が多いが、独自のアンケート調査も実施しており、また定期のお便りに個別の手紙を添えるなど生活の情報を多数発信し、より多くの意見の集約に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や会議などから、意見や提案を聞き、職員間で話しあいながら業務に反映させている。	人事考課制度で年に2回の職員面談をしているが、毎日の申し送りや月の定例の会議で意見や提案を受け、反映させるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や系列で行われる勉強会などから向上心を持って取り組める体制と、常に話しあえる状況から環境や条件などについて話しあえている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列内で行われる勉強会から知識を得て業務遂行に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列内で行われる勉強会や外部の勉強会参加が出来る機会があり、そこで情報交換や知識を得て普段の業務遂行に活かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	様子を伺い各入居者様と一緒に何か活動を行いながら、さりげなく思っていることや要望を伺い出来る限りの要望を叶え、気持ち穏やかに過ごしていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様ご来所時、常に会話を用いて要望や入居者様の性格上からの思考などを伺い、一緒に相談をさせていただきながら連携・協力し合える関係作りをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、入居者様と普段の会話などからの内容等、サービス開始時に更に深めて話しあいながらその方にあったふさわしいサービス支援を提供出来るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者様のご様子をみながら、一緒に何か活動を行い会話を用いて気分転換を図り、又入居者様から知識等、教えていただきながら共に生活をしている環境作りに努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と各入居者様が多くふれあえるよう催し参加の案内や遠方の方には職員が電話代行をし、その後ご家族、入居者様で話していただき、家族の絆が薄れぬよう配慮をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小学校からの親友の集まりの会やハッピーヴィラで行われる催しについて各入居者様のお友達にも伝え、馴染みの関係が続いていけるよう配慮している	月に一度の頻度で、利用者の小学校同窓会が開かれており、家族の協力を得ながら、関係継続に支援している。また美容室の利用や商店への活用も支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者様の苦手な方や親しみのある方の把握に努め、席の配慮や仲の良いもの同志の入浴などを行い楽しんでいただける関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前、入所をされていたご家族様よりハッピーヴィラにいた時の様子についての連絡があり、退所後もその方が穏やかに過ごせられるよう情報提供に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に何か行いながら各入居者様の出来る事や興味の持ちそうなことを把握し、サービス提供に努めている。	普段より日常の生活を支援する中から、利用者の意向や希望を把握し、本人本位のサービス提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に生活歴や暮らし方、特徴などを伺いながら把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様の様子を把握し、自己の生活ペースで穏やかに過ごせられるよう配慮している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の様子と会話から要望や思考を把握し、その後、ご家族様と話しあい、現状にあったふさわしいケアプランを作成をしている	介護計画で示された介護目標を、日々の生活でどの様に達成するのかを、毎日モニタリングをすることで検証しており、個別ケアの徹底に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア対応見直し表や申し送り時、常に話しあいながら実践し、ふさわしいのもでなければ再度話しあいながら行い計画書の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送り時等で変化に着目し、対応策を考慮しながら実践し、再度確認をしながら状況に応じたサービス支援を心がけて取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書の好きな方など、宅配図書館に依頼し、充実をした生活をおくれる様、配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体の様子を診ながら担当医やご家族様と相談の上で外部の病院受診をしている	定期の診療や突発的な受診も事業所で担っており、往診や訪問看護も含め安心な医療を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	経過・様子表に各入居者様の様子を記載し、訪問看護師来所時に伺い、指示を受けながら対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病棟にて看護師さんと情報交換をし、又ご家族様に経過や退院後についての要望を伺い、その後医療相談員と話しあいながら連携体制をとれるよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やケアプラン評価時などに入居者様の現状を説明した上で、今までの入居者様の例を話し、重度化した場合に即時に対応出来る様、又、事業所で出来る事と出来ない事を明確に伝え後々の状況に対応出来る様、取り組んでいる	終末期のケアについて、事業所の出来る事と出来ない事を説明し、他施設への移行も配慮しながら、良く理解できるように、今までの実践例を説明しながら、利用者と家族の思いに対応出来る様に取り組んでいる。	終末期のケアについて、当事業所の利用者は、その人に合った施設選択が可能であり、望ましい体制と思えるが、その選択肢のひとつである当事業所での看取りを、より具体的にわかりやすく書面で説明するよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年に一度、普通救命講習会の開催依頼をし、急変時の対応に向けての再認識や、マニュアルを定期的に見直したり、口頭で常時話し、即時に対応できるようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて避難訓練開催時と開催後にご意見やコメントをいただき、地域の方に協力体制を求めている。又、緊急時の連絡先として依頼し、電話番号の交換をし、即時の対応が出来るようにしている	年に2回、火災を想定し訓練を実施している。ご近所の連絡先も避難連絡網に記載し、協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の様子をみながら、粗相のないよう配慮しながら会話をしている	馴れ々しいのと親身との違いを接遇を重ねて理解し、人格の尊重を第一に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを一緒に言いながら、さりげなく思っていることなどを伺い、内容に即した自己決定ができるよう配慮をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々状況により、なるべく職員の都合が優先にならぬよう意識をしながら対応させていただいているが、どうしてもやむを得ない時は職員の都合が優先的になっていることもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服や季節感、温度などにあわせた洋服選びを手伝い、話しあいながら、その人らしい、おしゃれができるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に野菜刻みや食器洗いをしながら会話を用いて楽しいでいただきながら、その方の残存能力が活かされるようにしている	メニューやカロリーは管理栄養士の指導により徹底しているが、片付けや下準備など、出来る範囲でのお手伝いをお願いし、皆で楽しむ食事になるよう心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の摂取量や水分飲用量から看護師やご家族様と話しあいながら、好みの物を摂取していただき栄養が片寄せらぬよう、不足にならぬようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行わないと残骸から疾患を招きやすいことを話し、自ら口腔ケアを行う習慣が身につくよう配慮をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンからなるべく、自己でトイレへ行かれる習慣が身につくよう、トイレ誘導をさりげなく促している	排泄のパターンやサインを見逃さず、トイレでの排泄を目指しており、個々の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘以外にも気分の落ち着きなどを考慮しホットミルク飲用を勧めたりとしながら対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り要望に添って対応したいが、どうしてもその時々状況により、こちらの都合で入浴をする時間を決めたりという状況になってしまっている	週に3回を目処に入浴を援助しているが、無理強いはせず、拒否があれば職員や時間帯をずらして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活ペースとその時の様子から無理に声掛けをせず、休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人がどのような薬を服薬しているか？常に把握し、担当医や看護師と服薬の量や副作用について確認をし、対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の特徴や出来ることを見極め、気分転換と残存能力が活かされるよう取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所へ散歩や近くの喫茶店へ行ったりしながら気分転換を図り楽しんでいただきながら出来る限りのご要望に添えるようにしている	近郊の景勝地へは何度も出かけており、また市内の幹線道路に近く、周辺は散歩に最適の条件ではないが、喫茶店やスーパーの活用等、日々要望に応える様に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を所持出来る方はご家族様とも相談の上で所持をされ、かかった料金をご自分で支払われたりとご自分で管理をする意欲と認識を維持できるように配慮している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をされたり、各入居者様の様子から職員代行でご家族様に電話をしその後ご本人様とご家族様で話していただくことにより入居者様の気分の安定と家族の絆が保たれるようにしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の気温について入居者様に伺いながら温度調整を行い、過ごしやすい温度にしている。他、季節感や状況から小鳥の声のCDをかけたり馴染のある音楽などから皆で歌い、癒しの空間の演出が出来る様にしている	1階と2階とは階段の利用となるが、職員の見守りと介護により、大きな障壁とはなっていない。皆が集う居間は大きく、すわって寛ぐ用意もあり、小鳥も飼われており、くつろぐ空間として十分に機能している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が居心地良く過ごせる場所を考慮しながらソファの位置を変えたり、仲の良い入居者様同志と一緒に過ごせる場や席を考慮しながら対応している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の物や眺めていたい絵や写真など、ご本人様とご家族様と相談をしながら居室の空間を作り又、居室に置いておくのは危険性のあるものはご家族様と相談をしながら置かない工夫をしている	室内には馴染みの小物や写真類も見つけられ、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や廊下にソファを置き休んだり、会話が出来る空間を作ったりしながら対応している		